

仮面の女神
出土25周年

茅野でミニ土偶や 缶バッチ作りWS

茅野市の国史土偶「仮面の女神」の出土25周年を記念したイベント「仮面の女神に会いに来て」が24日、出土地の同市湖東山口にある中ッ原縄文公園などで行われた。地域を盛り上げようと山口区の住民が初めて開いたワークショップ(WS)やDVD上映、講演会などを繰り広げ、地正の子ともや年寄りが地域の宝に親しんだ。

仮面の女神は2000年8月23日に出土。市が整備した中ッ原縄文公園には発見時の様子が再現されている。WSは同公園であり、地正の陶芸家や絵本作家の手ほどきでミニ土偶

作りや缶バッチ作りに挑戦。両親と参加した湖東保育園年長の田中咲莉ちゃん(8)は楽しそうに粘土を丸めたり、カラーペン

で缶バッチの土絵を描いたりしていた。「縄文時代の集落があった場所で土偶を作るのは感慨深い」と話す参加者もいた。

山口公民館では、市尖石縄文考古館の協力を得て仮面の女神の発掘や国史指定の経緯、縄文公園開園時の映像などを視聴した。発掘に携わった寺矢昌文特別館長によるエピソードを交えた講演もあり、参加者の注目を集めていた。木村明美実行委員長は「区内の女性で地域を盛り上げようと考える中で思いついた。区を巻き込み大勢の協力で節目の行事が実現できて良かった」と話していた。(武井葉子)



特徴的な柱が建つ中ッ原縄文公園でミニ土偶を作る親子